

重信川の泉ウオッチング

松山市の貴重な水源である重信川流域には、江戸時代から多くの泉が掘られ、現在もたくさん残っています。泉の周りには水生の植物や昆虫、魚、鳥などの生態系がぎゅっと凝縮しています。また、命の源である水のせせらぎは、

ほっと安らぎを与えてくれます。心癒される憩いの泉に出かけてみませんか？



雑木林に囲まれ、神秘的な雰囲気漂わせる三ヶ村泉

泉は伏流水をいかす 先人の遺産

重信川は、東温市にある標高1233mの東三方ヶ森を源に、松山平野の大小の支流と合流して伊予灘に注いでいます。

重信川流域の地質はもろく、急勾配であることから、上流から流れてきた土砂が積み重なって扇状地となり、水はほとんどが河床にしみ込んでしまします。そこで流域では、少ない河川水を補うために、江戸時代から農民たちによって、多くの泉が掘られてきました。現在残っている泉の多くは、こうした先人たちの努力で残された貴重な遺産なのです。



▲ナガエミクリ:6~7月、わき水の周りで見られる水生植物



▲ハグロトンボ:水生植物のあるゆるい流れを好み、5~10月に飛ぶ

水辺の生き物 ワンダーランド

泉の周囲には、ナガエミクリやマツモなどの水生植物、ゲンジボタルやハグロトンボなどの昆虫、オйкаワなどの魚類が生息し、一つの生態系を作っています。この生き物たちは、水路などを伝って他の泉や河川へと移動します。これが相互に繰り返されて、さらに大きな生態系ができます。生物の良好な環境を保つためにも、泉は重要な場所です。

泉の保全と 親水スポット

平成6年に愛媛県立博物館(現愛媛県総合科学博物館)が実施した調査では、重信川流域には130もの泉が確認されています。ところが、近年宅地化が進むなど、泉の環境は激変しました。放置され枯れてしまった泉や、開発で埋められた泉もあります。

最近になって、生態系の要の一つであり、貴重な水源でもある泉の役割が見直され、泉を保全したり再生したりするプロジェクトが進んでいます。また、整備した泉を公園にして、地域の人々の親水スポットになるところも増えてきました。

水ぬるむ春、生き物たちが活発に動き始めます。身近で自然が学べ、心癒される泉に、家族で出かけしてみませんか。

[重信川流域 泉百景 MAP]

雑木林に囲まれた泉、きれいな水がこんこんとわく泉、子どもの遊び場になっている泉、民家に囲まれた泉など、重信川流域の泉の姿はさまざまです。



親子で気軽に 重信川流域の泉スポット

杖ノ淵公園 (じょうのふちこうえん) (松山市南高井町)

弘法大師が、水不足に苦しむ農民のために杖を置いてわき水を得たという伝説の泉がある。環境庁(現・環境省)が昭和60年に選定した名水百選の一つ。裏手の水路では、本書のタイトルでもある「いでれぎ」が栽培されている。



三ヶ村泉 (さんがむらいずみ) (東温市田窪)

江戸時代に10年の歳月と多大な費用を費やして、旧牛淵・北野田・南野田の3つの村が共同で開発した泉。水量が豊富で、ほぼ昔のままの姿をとどめる泉として注目を集めている。国土交通省四国地方整備局が平成15年に選定した「四国のみずべ八十八カ所」の一つ。



赤坂泉 (あかさかいずみ) (砥部町重光)

干ばつに苦しんだ農民たちが、江戸時代に10年余りかけて完成させたという泉。現在は、トイレや駐車場も完備された親水公園に整備され、多くの人が訪れる人気のスポットになっている。春は桜の名所。



松原泉 (まつばらいずみ) (松山市森松町)

昭和34年の河川改修工事で、一度は埋没した泉。「重信川の自然をなくむ会」が中心になって再生され、平成18年に、47年ぶりに水をたたえた。周辺は、親水公園として整備され、植樹などが進められている。



重信川流域の泉をたずねる エコツアーに参加しよう

松山平野に残る貴重な水辺を、エコガイドと一緒に観察するエコツアーに参加してみませんか。コースは希望によりアレンジOK。参加費の目安は、2時間コースで1人1000円から(保険料含む)。3名以上で申し込み。

【おすすめコース】

- 柳原泉→森之木泉→三ヶ村泉(所要時間約2時間半)
住民が手入れした柳原泉、水量が多く魚や昆虫がたくさん見られる森之木泉、原生に近い自然の姿を残す三ヶ村泉、それぞれの特徴を観察することができます。
- お問い合わせ:松山ネイチャーエコツアー協議会
(事務局:まつやまNPOサポートセンター内) ☎089-943-5790
http://www.npo.coms.or.jp/eco_tour

